

別記様式

議 事 録

会議の名称	第2回 岩倉市公立保育園適正配置方針に係る懇話会
開催日時	平成30年1月22日(月) 13時30分から15時40分まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第3委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	小松尚委員長、鎌倉博副委員長、町田竜介委員、廣中大雄委員、中島正資委員 今井希恵委員、岸野奈津美委員、渡邊亜希委員、寺澤あや委員、八木純子委員 社本真夕美委員、中島光恵委員 説明者：副市長、教育こども未来部長、子育て支援課長、児童グループ長及び係 コンサルタント：地域問題研究所
会議の議題	(1) アンケート調査の進捗状況 (2) 岩倉市の保育園の現状：園児数等から見た岩倉市の保育園の現状
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	資料-1 アンケート調査票(最終) 資料-2 1. 園児数等から見た岩倉市の保育の現状 2. 岩倉市の公立保育園の概要 別添資料 「岩倉市公共施設等総合管理計画の概要」
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	2人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1. 開会	
事務局	・第2回岩倉市公立保育園適正配置方針に係る懇話会を開催させていただきます。
委員長	・今回、第2回目ということで、岩倉市の保育、岩倉市の公共施設について忌憚のないご意見をお聞かせいただき、次回、アンケートの結果を基に皆様のご意見を活かしていきたいので、ベーシックなご意見をよろしくお願い致します。
2. 議題	

(1) アンケート調査の進捗状況 事務局より、アンケート調査の進捗状況について説明	
委員長	・(アンケート) ページ数が多いので心配しましたが、どうだったのでしょうか。
事務局	・設問内容等について事務局のほうに直接なお問い合わせはありませんでした。 ・各園を通じて回答を回収しておりますが、保護者の皆様にご協力いただき、回収率は80%を超えています。
(2) 岩倉市の保育園の現状：園児数等から見た岩倉市の保育園の現状 事務局より、資料-2「1. 園児数等からみた岩倉市の保育園の現状」に基づき、園児数等から見た岩倉市の保育園の現状について説明	
委員長	・(資料2-図1、図3) ベーシックな質問ですが、平成29年、保育園、認定こども園に入っている方は682人ですが、就学前の児童数の推移でいくと、2,400人くらいいらっしゃると思いますが、この差はどのように考えればよいのでしょうか。
事務局	・3歳から5歳の幼稚園に通っているお子さんと、3歳未満(0歳、1歳、2歳)のどこにも通われていないお子さんがご家庭にいらっしゃるということがあります。
副市長	・3歳以上児(3歳、4歳、5歳)は保育園、幼稚園のいずれかにほとんど通われています。図の3歳から5歳児の数から保育園児の数を引いた数は、ほぼ、幼稚園に通ってみると見ても大きな間違いはないと考えます。0歳、1歳、2歳をどのように見るかと言うことですが、受け皿がないため、3歳以上児のようにどこかに通っていただくことはできないということになります。この間は家庭で見られているという見方もできますが、この部分の絶対数が足りないということも言えます。これまでは、家庭で看ている方が多かったのですが、それだけの定員数が必要ではなかったのですが、現在の待機児童の数を見ると、もう少し下の年齢から保育園、幼稚園に入れたいという見方もできます。岩倉市では幼稚園の2歳児教育が本格的に始まっていないので、保育園に受け皿がないと入れないという状況となっています。このことから、児童数が減っても当分の間は、待機児童は出ると見たほうがよいかもしれません。
委員長	・全体としては数が減って行きますが、ニーズに対してキャパシティは追いついていないといえます。この現状認識はきちっとしておいたほうがよいと思います。
委員	・(資料2-図3) 図の私立保育園はどこのことでしょうか。
事務局	・こどもの森保育園とこどものまち保育園を指していますので、0歳から2歳のお子さんになります。
委員	・(資料2-図3) 認定こども園に通っていた1歳、2歳のお子さんが、認定こども園の幼児部に入ったときは、認定こども園に含まれているのですか。
事務局	・保育の認定のまま、認定こども園に通われている方は図の斜線の部

	分に含まれています。3歳になって、教育のほうに移られた方はこの図にはカウントされていません。
委員	・認定こども園で3歳以降も引き続き保育を受けた場合、日中は幼児部の子どもたちと過ごしますが、それも含まれてはいないのですか。
事務局	・保育のほうで入られていれば、認定こども園のほうに入っています。教育認定ということで通われている場合は、入っていません。認定こども園は両方の機能がありますので、同じ教室に保育で通われているお子さんと教育で通われているお子さんがいますが、この図では保育で通われている園児のみをカウントしています。
副市長	・認定は1号、2号、3号と明確に分かれており、3歳未満児で保育園に通っているお子さんは全員3号認定です。3歳になった際、保育でそのままのお子さんは2号認定ですが、幼児部に行くお子さんは1号認定になります。この図は2号と3号しか入っていません。
事務局	・(資料2-図3) 具体的には平成29年の斜線部分の165人は認定こども園の2号認定のお子さんの数になります。教育の部門である1号認定のお子さんは3園で311人となっています。合わせて476人となります。図の29人については、岩倉市内の私立の保育園と小規模保育事業所に通っているお子さんの数となっています。
委員	・以前、子育て支援課でうかがった際、認定こども園は保育部と幼児部があり、3歳以降、延長保育の希望者は、日中は幼児部で過ごし、幼児部が帰った後は保育部としての扱いで過ごすという説明を受けました。
副市長	・実態としては、おっしゃる通りです。この図の中に2号のお子さんは入りますが、1号のお子さんは入りません。
副委員長	・認定こども園の当面の募集人数と充足率について教えてくださいませんか。
委員	・岩倉北幼稚園について、来年度の募集は1歳が16人、2歳が24人です。以前は12人と18人の計30人でしたが、40人に増やしました。24人が3歳に上がることで、1号の子が入れないという弊害が出ています。
委員	・認定こども園については定員の変更はありません。
委員	・認定こども園としては、1歳は12人、2歳は18人、3歳以降は18人の子が上がってきて、1号の子を合わせて60人です。変更はなく、充足率は100パーセントです。
(2) 岩倉市の保育園の現状：施設面から見た岩倉市の保育園の現状 事務局より、別添資料「岩倉市公共施設等総合管理計画の概要」に基づき、岩倉市全体の公共施設の状況や岩倉市総合管理計画の策定の背景と考え方について説明	
委員長	・(別添資料：スライドNo7) ただ今の説明内容は日本全国で議論されていることです。ただ、縮減すべき延べ床面積の数値は自治体によって違っています。名古屋市の場合は10パーセントですが、某市では40パーセントというところもあります。 ・(別添資料：スライドNo2) 学校の延床面積が46.3パーセントと

	<p>なっています。一見、高いように見えますが、どこの自治体も4割から5割となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市の場合、13パーセント減らすということですが、全ての施設を同じように減らすことはできません。 ・(別添資料：スライドNo2) この円グラフの学校の割合は、子どもがたくさんいた時代に造られた面積の割合ですので、少子化の時代、この面積を持ち続けることは現実的ではないということが、総合管理計画の肝になります。このことは、保育園についても同じですので、増やしていくということできないということになります。将来的には統廃合や空いたクラスを別の用途に使う等を考える必要がでてくるかもしれません。学校に親和性の高いものを入れる動きは実際に始まっています。これを保育施設で見たときに、どうしていくのかということなども話し合っていきたい。
<p>(3) 岩倉市の保育園の現状：今後の保育施設、保育のありかた 事務局より、資料-2「2. 岩倉市の公立保育園の概要」に基づき、施設面から見た岩倉市の保育園の現状について説明</p>	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園を卒園したら次は小学校へと、子育て世代にとって重要な事柄になりますので、現状を踏まえた上で、もう少し視野を広げた形でのご意見をいただけたらと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数保育について、保護者の間では良いという話しをしています。大きな園では1クラスの人数が多いので、先生がクラスをまとめるのに苦労しているだとか、1人ひとりに目が行き届かないという声を聞きます。西部保育園だと小規模なので、1人ひとりを見守っていただけます。個人的には西部保育園が良いと感じており、満足しています。 ・財源の関係で少人数制をなくすことは、今まで培った良さが損なわれるのではないかと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを北部保育園に通わせています。子どもが少な目で、異年齢保育により、下の年齢の子たちとも遊べるので良いとは思いますが、保護者の数が少ないことによる保護者の負担が大きくなるということもあります。兄弟がいることで、役員を2回、3回やらなければならないこともあります。少人数でも困った部分が出てくると思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(別添資料：スライドNo7) 延床面積13パーセント削減とありましたが、現時点、保育園以外で削減対象となっている施設はあるのでしょうか。あるいは、保育園が最初の対象なのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の施設について、利用されている方々からヒアリングをさせていただきました。いろいろなご意見をいただきながら、岩倉市の現状、将来人口等を総合的に勘案しながら今後、どのように配置を行っていくかを検討しています。30年度、1年を掛け、市として再配置の方針を出し、40年間でそれを達成しようと考えております。今

	<p>後、モデル事業といった形で保育園に限らず、小学校、地区の集会所施設などありとあらゆる施設について、施設の統廃合等を案として出していこうと考えております。保育園だけに特化せず、トータルとして考えていきたいと思っております。皆さまのご意見をうかがいながら、地域の皆様が納得いく形での再配置計画をつくっていききたいと考えております。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の延床面積は具体的にどのくらい減るのでしょうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ (例示として) 他の都市ではどういった議論をしているかをお話します。学校はウェイトが大きく、子どもの数が減ることも考えると学校をかなり減らさなければならなくなります。岩倉市で言えば13パーセント以上減らすということになります。名古屋市では、全体で10パーセントでしたが、学校は2割強減らさないとお金の面からうまくいかないということが、計算上出ています。その際、小学校の統廃合はありますが、小中一貫ということで、小学校と中学校の統合もあります。これには、教育上のメリットもありますが、施設上のメリットもあります。この考え方から小学校と幼稚園、小学校と保育園の統合という話も出てきます。小学校は地域で最も大きな敷地、施設を持っていることから、学校と親和性の高い施設を入れて空間だけの活用に留まらず、いろいろなプログラムを組んだりしていこうと考えている自治体もあります。面積を減らすことは単純に維持費を減らすこともありますが、それを機会に今までできなかったことを行おうとしている自治体もあります。 ・ 岩倉市も今後そういったことを具体的に考えていくことになると思いますが、そういった意味で、現状を共有し、良い方向にもっていくための話し合いがこの懇話会です。今回はフリーディスカッションですが、次回はアンケートの結果を基に話し合いを行っていただくこととなります。とかく、こういった話しはシュリンクしがちですが、現状のニーズに合った公共施設を考えていくことはポジティブなことなので、将来の子どもたちに良い資産を残すためにも忌憚のないご意見をお願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋市は小学校の統廃合がかなり進んでいます。私の住んでいる西区でも、以前、3つの小学校が統廃合で1つになりました。娘の友達はその統合された新しい小学校に通っているのですが、きれいな校舎で羨ましいといっています。統廃合ということはネガティブな話しではないと思います。 ・ 岩倉市は保育の基準を月60時間でやっていらっしゃるようですが、他の市では120時間以上でないといけないとしているところもあります。岩倉市は保育に手厚いと感じます。 ・ 私たち園を預かっている者として現在、最も大きな問題は先生が集

	<p>まらないということがあります。新卒の先生が以前はたくさんいましたが、今は少なくなったため、どこの施設も取り合いの状態となっています。そこが一番の悩みです。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・うちも職員の確保が悩みで、10人に増やしてほしいと言われても職員を3人くらい増やさないといけないので、たかが10人ですが3人いるということになりますので、確保には困っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも論ですが、全国的に公共施設のあり方を見直しましょうとしていますが、これだけ、多くの自治体が困っているのであれば、40年スパンを考え、国が補助金を出すといったような話しは出てこないものなのではないでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・40年先を見通してということですが、5年先、10年先になにが起こるかわからないと思っております、40年を10年単位で、さらに、10年を5年単位で計画を見直そうという計画を立てています。社会情勢や国の動向を踏まえて5年ごとに見直しをすることは大切だと考えています。40年に縛られるのではなく、常に見直しをしていくということでご理解いただければと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・近未来的に国が考え方を変え、市に補助金をといた話しは出てこないのでしょうか。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・あり得ないと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことであれば、減らしていかなくてはなりません、ただ減らすのではなく、障害のある子どもたちやアレルギーを抱えた子どもたちを受け入れることには限界があると思いますので、そういったところに光が当たるような保育園づくりをしていただければと思います。 ・例えば、小学校を活用してインターナショナルスクールでもよいですが、そういった新しい活用を考えていけば、明るい未来はあると思います。 ・私立の幼稚園や認定こども園の建物は40年くらい経っていますので、その建て替えも考えていかなくてはならないので、そういったことは心配です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者が新しいものに対して抵抗があると思います。新しいものが子どもたちにとって良い環境であったり、建物が綺麗であったりして子どものほうから通いたいと言ってもらえるようになれば、保護者に受け入れられると思います。 ・内容的にも今までとは違う、例えば、英語の歌や字の書き方を教えるなど、プラスアルファで普通の保育とは違うものにしたほうが良いと思います。 ・人数が多くなると全体で行うプログラム、例えば、演劇会や演奏会

	<p>などは全員の子どもたちが参加できるか疑問です。子ども1人ひとりに目が行き届かなくなるのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、異年齢保育ができるのは人数が少ないからです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢保育は14年、15年前から始まっていますが、当初は地域のお子さんが減ってきて、クラスを運営するのが難しくなったことから始まりました。仙奈保育園の異年齢保育は違う考えで行っています。以前は毎年クラス替えができていましたが、子どもの数が減りクラス数が減るとクラス替えができないため、3歳児クラスで入園すると卒園するまで同じクラスで同じメンバーとなってしまいます。そうするとクラスに馴染めないお子さんは3年間ずっとそのクラスで過ごさなくてはならなくなります。また、いろいろな先生や子どもたちと関わることでコミュニケーション能力も高まるのではないかとといった考えから仙奈保育園では3クラスでの異年齢保育を行っています。 ・来年度は東部保育園でも異年齢保育をやることになっています。1年、2年の間に全保育園で異年齢保育にできないかを考えています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の中で兄弟が少なくなっているので、異年齢保育は良いことだと感じますが、統廃合することで異年齢保育がなくなるのだったら、残念なことだと思います。 ・公立保育園の何が良いのかを具体的に保護者の方からうかがった上で、統廃合を考えるべきで、何が残せるのか、何をプラスアルファできるのかを考えるべきだと思います。新しいほうに行きたいと保護者が思えるようにしなくてはいけないと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が変えて良かったと思えるようにするための議論は大事だと思います。 ・保育の関係では、教育の機能と養護の機能を一体化することを目指しています。発達に障害のあるお子さんやアレルギーのあるお子さんがいるなど、子どもたちの状況が多様になっていることから、多様なニーズに応えることが大事なことだと思っています。発達障害のお子さんが増えていることから、北名古屋市には公立で発達支援に当たる療育園が2園あり、私のところからも数名そちらにお世話になっています。本園に在籍したまま療育園で過ごし、馴染ってきたら1週間に1回、本園に来たりする中で1年後には本園で過ごせるようになったケースがあります。北名古屋市が療育園を造ってくれていることはありがたく感じているのですが、キャパシティが少ないことから、もう少し受け入れを増やしてもらえるように要望しているところです。発達に遅れがみられる子どもたちが通えるような、園があるということも大事だと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなお子さんをお持ちの家庭での困りごとに、子どもさんが熱を出した時など、なかなか、お医者さんが見つからないということがあります。外国では保育園と医療機関を一緒に造ったり、医療機関の近隣に保育園を造ったりすることなどが進んでいると聞きます。医療機関と繋がれる位置関係、一体化の施設など、先進の保育施設も一考の余地があると思います。 ・私自身、東京で幼稚園と小学校が同一敷地内に併設となった施設で幼稚園長兼校長という職務を経験しましたが、小学校と幼稚園の一体化、所謂、幼小ではそれなりの大変さもあります。例えば、危ないという理由で幼稚園の子どもたちが校庭を使えなかったりしましたが、結局、1年間の議論の末、使えるようにはなりました。それ以降は調理室や図書館も使えるようになり、幼児教育、保育の質が高まるということに繋がりました。 ・今は教員、保育士のなり手が減っていることから、再雇用で補充したりしています。一番のネックは待遇の問題ですが、市としても、大学と連携しながら、教員、保育士を増やす手だてを講じていただきたいと思います。 ・先般、北部保育園を見学した際、駐車スペースが少ないと感じましたので、駐車スペースを確保した立地を考えなくてはいけないと思いました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子はよく熱を出すので、医療機関と一体になっている保育園はありがたいと思います。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんはどちらの保育園ですか。また、理由は何ですか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・西部保育園で、近いからです。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さん同じ理由なのでしょう。普段はどのようにお子さんを通わせているのでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事がある時は車で、休みの日は自転車です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を利用されている方も多いますが、中部保育園の場合は自転車、車は半々くらいなので、保護者から駐車場の確保についてよく言われます。地域の方から路上駐車の苦情もあります。新しい施設になれば、駐車場は必要だと思います。 ・異年齢保育について、中部保育園は異年齢保育はやっていませんが、異年齢交流という形で交流は続けています。異年齢保育はいろいろな友達、保育士と関わることでの成長が期待されるので、やっていこうという方向で進めています。 ・中部保育園は大きい部類の保育園だと思いますが、10年前は2クラスずつだったのが、現在は1クラスずつとなっています。大きな保育園では多くの子どもたちと関われるというメリットがあります。

	<p>小規模の保育園では保育士がよく目が届くとは言いますが、大規模になればその分保育士の数も多くなりますので、多くの目で見られるということもあります。大規模、小規模それぞれにメリット、デメリットがあります。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・北部保育園と西部保育園は2クラスで異年齢保育をしており、仙奈保育園は3クラスで異年齢保育をしています。来年度以降は東部保育園も始める予定であり、その他の保育園も話しを進めています。公立保育園は正規職員も臨時職員も人事異動があり、異年齢保育を経験していない職員もいることから、職員同士の交流の中で、異年齢保育の学習を深めています。そんな中、ここ2年、3年中に岩倉流の異年齢保育が確立するものと考えています。統合ということになっても仙奈保育園がやっているような3クラスの縦割りを4クラスにするなど、異年齢保育のやり方を柔軟に考えることで、保護者の不安を払拭できるのではないかと思います。 ・駐車場については、園ができた当初は自転車での送り迎えが大多数でしたが、時代の流れから、車社会となったことでの新しいニーズであるので、重要な課題ではあると思います。 ・保育のあり方に関しては、園同士の連携をとりながら話し合いを定期的に持っていますが、引き続き行っていきたいと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・質問ですが、園の統合に関して、仮に2園が統合する際、2園の定員にプラスし、余裕を持って定員を確保するのか、2園の定員より少ない形で施設を造るのか、どうなのでしょう。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・再配置の基本方針から言えば、適正な定員にするということなので、仮に定員100の保育園と定員100の保育園を統合しても定員200の保育園は造りません。現在、保育園の実質人数は定員の6割くらいですので、床面積を減らすことと併せて適正な定員を考えなくてはなりません。現在、0歳、1歳、2歳の定員は足りていない状況ですので、このことが単純に考えることができない理由です。このため、0歳、1歳、2歳児は増やし、幼児部を減らすことで全体を見なければなりません。
地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の現場では、1クラスしかない中、固定的な人間関係となることは、あまり良くないという意見もあります。公立保育園は全て、異年齢保育でいくのが良いのか、異年齢保育の良い部分は残しながら、多様性を持たせる方向でいくほうが良いのかをもう一度考える必要があると感じました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(補足説明として) 異年齢といっても生活の部分では異年齢で過ごしますが、発達年齢の部分は学年別でやっていきますので、縦割りといっても1日全てが縦割りでやっていくということではありません。

地域問題研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・2クラスあればクラス替えもできますが、小規模園ではどうしても1クラスだけとなり、固定的になります。公立保育園を全て1クラス体制にすることは多様性の観点からどうなのかと思いました。その辺り、充分議論されているのかが疑問でした。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は少人数なので異年齢ということでしたが、今は1クラスではないクラス数の多いところでも異年齢ということで行っております。危惧される内容をクリアする方向で異年齢を考えております。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは、どこの学校に入っても同じような教育が行われていましたが、統廃合などのタイミングに合わせて、個性のある学校をつくらうという考えのある自治体もあります。保護者は自分の子どもが馴染めそうなところを選択できます。ニーズが増えた今日、学校もフレキシブルであったほうが良いとする自治体もあります。保育園で言えば、少人数教育に力点を置くところもあれば、大規模保育園ではいろいろな子どもたちと接することを中心に据えているところもあります。今日の議論にあったように少し違いを付けた保育園をつくらうという考え方もあります。昔は特色のあることが不平等と言われたこともありましたが、これからは、そういった考え方もあり得るということで、選択肢が増えるという捉え方広がりつつあります。これを選択肢とするか否かは別として、そういった考え方もあるということの頭の片隅に置いていただければと思います。 ・次回はアンケートの結果報告とその分析について解説を含め、ご報告いただければと思います。
<p>3. その他</p> <p>事務局より、次回の開催日について日程調整</p> <p>次回は、平成30年3月16日 午前10時から開催することに決定。</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回岩倉市公立保育園適正配置方針に係る懇話会を閉会させていただきます。